



平成 19 年 3 月 20 日

各 位

本店所在地 堺市堺区戎島町 4 丁 45 番地の 1
会社名 株式会社 ユークス
(コード番号 4334 ヘラクレス)
代表者名 代表取締役社長 谷口 行規
問合せ先 常務取締役 品治 康隆
電話番号 072(224)5155 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 1 月期 (平成 18 年 2 月 1 日～平成 19 年 1 月 31 日) の業績予想について、平成 18 年 12 月 18 日に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 19 年 1 月期連結業績予想数値の修正 (平成 18 年 2 月 1 日～平成 19 年 1 月 31 日)
(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	4,225	208	9
今回修正予想(B)	4,812	814	△601
増減額 (B-A)	587	606	△610
増減率 (%)	13.9	291.3	—
前期 (平成 18 年 1 月期) 実績	3,107	689	400

2. 平成 19 年 1 月期個別業績予想数値の修正 (平成 18 年 2 月 1 日～平成 19 年 1 月 31 日)
(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	2,780	500	276
今回修正予想(B)	3,266	976	△518
増減額 (B-A)	486	476	△794
増減率 (%)	17.5	95.2	—
前期 (平成 18 年 1 月期) 実績	2,957	673	384

3. 修正の理由

売上高および経常利益は、デジタルコンテンツ事業の主力商品である平成18年11月発売のスマックダウンシリーズの8作目「WWE SmackDown! VS Raw 2007」が北米をはじめ欧州、韓国等で好調な売り上げを記録したことによるロイヤリティ収入の増大、また、興行事業では平成19年1月4日の「レスルキングダム IN 東京ドーム」興行の成功等を主要因として、前回予想を大幅に上回る見通しとなりました。特に、経常利益につきましては、連結・個別業績ともに過去最高となる見通しとなりました。

一方、当期純利益は下記の理由により、連結・個別業績ともに大幅な赤字となる見通しとなりました。

当社は、平成17年11月に新日本プロレスリング株式会社の株式51.5%をアントニオ猪木氏より取得して以来、1年3ヶ月にわたり、同社の経営改善を図るべく尽力して参りました。

本年度におきましては、ロイヤリティ契約関係の精査および興行原価に対応する収益効果測定を行い、同社の経営改善計画の見直しを行いました。その結果、下期のみで見ますと、平成19年1月4日の東京ドーム興行の成功等により経常損益段階で黒字を達成し、当初想定しておりました経営改善計画を達成いたしました。

しかしながら、相次ぐ上場企業の財務情報に関する問題等から、グループ企業に対する評価実務は厳しさを増しており、当社の同社に対する投融資および連結財務諸表における「連結調整勘定」の評価に対して、より厳格な判断による監査法人の指摘を受けました。当社といたしましては、同社の経営改善計画は予定通り進捗しており、今後の収益獲得に貢献していくとの従来の判断に変更はありませんが、これらの監査法人の指摘を受け入れ、当期において保守的に会計処理することが経営の不確実性を排除し、グループの財政状態の健全化に資すると判断し、個別財務諸表では、200,159千円の関係会社株式評価損および889,794千円の貸倒引当金繰入額を特別損失に計上するとともに、連結財務諸表では、連結調整勘定償却額1,036,350千円を特別損失に計上することにいたしました。

当社は、新日本プロレスリング株式会社をユークスグループの一員として、今後も存続させていく所存であります。株主各位および関係諸団体の皆様方におかれましては、何卒、ご理解を賜り、引き続きご支援の程よろしくお願いいたします。

以 上